

# AI導入推進

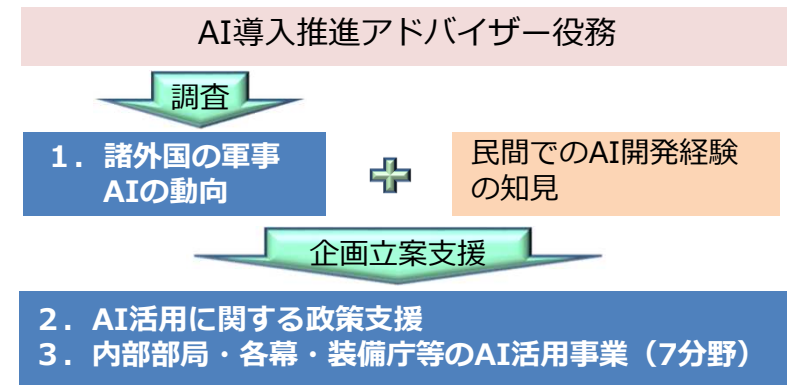
【令和7年度予算額】（歳出ベース）118,095千円（契約ベース）118,095千円

## 1. 事業概要

- 民間では、AIに関連した技術革新が進行。防衛省においてAIの活用を推進する上で、その知見を取り込むことが重要。
- 他方、AIには、一定の誤りが含まれることにまつわる信頼性の懸念や、学習データの偏りなどに起因するバイアスなどの課題やリスクがともなうとの指摘あり。
- AIの課題やリスクを把握しつつ、適切に活用するため、知見を有する部外の者から、防衛省におけるAIの活用に係る助言等を得た上で、防衛省AI活用推進基本方針を令和6年7月に策定した。
- また、課題を把握しつつ、防衛省・自衛隊におけるAI導入を推進するため、AIの知見を有する部内人材の教育を行う。

### 【主な活動内容（令和2年度から事業開始）】

- AI導入推進に係るアドバイザー役務
  - ・ 諸外国のAI導入に関する政策等の調査
  - ・ AIの活用方針への助言等
  - ・ AI導入事業の管理に係る助言
- AIに係る部外委託研修の実施



## 2. 論点

- ① 安全保障分野におけるAIの活用については様々なリスクも伴うが、防衛省としてAIをどのように導入・活用していくべきか。
- ② AI導入・活用の向上を推進するため、AIに知見を有する人材の確保・育成が必要であるが、防衛省としてどのような施策を講じていくべきか。
- ③ 上記の論点①及び②を踏まえ、本事業に係る活動指標・成果指標の設定は適切か。

### 3. ロジックモデル

#### 現状・課題

国内外の民生分野において急速にA I関連の技術が進展する中、防衛省としてA Iの導入・活用を推進していくため、民生分野の知見を取り込んでいくことが重要となっている。

他方、A Iには一定の誤りが含まれることによる信頼性の懸念や、学習データの偏りなどに起因するリスクが伴うとの指摘があることから、A Iに係る動向や課題を適切に把握しつつ民間の技術的知見を取得していくこと等が重要であり、併せて、A Iの導入・活用を推進する体制を支える部内人材を育成していく必要がある。

#### インパクト (事業の目的)

A Iの導入・活用の拡大及びそれを支える体制の強化を通じて防衛力整備計画の7つの主要事業（スタンド・オフ防衛能力、統合防空ミサイル能力、無人アセット防衛能力、領域横断作戦能力、指揮統制・情報関連機能、機動展開能力・国民保護、持続性・強靱性）を中心とした防衛力の強化を加速する。

#### アクティビティ（活動）

#### アウトプット（活動結果）

#### アウトカム（短期）

#### アウトカム（長期）

① A I 導入等に対してA I 導入推進アドバイザーの支援

① A I 導入推進アドバイザーによる支援

【活動指標】  
助言等を受けた件数

① A I 導入推進アドバイザーの助言によるA I 導入事業の確実な執行  
【成果指標】  
単年度のA I 導入事業の執行件数

①防衛省AI活用推進基本方針が掲げる7分野を中心にA Iの導入・活用を拡大

② A I に係る部外委託研修

② A I に係る部外委託研修

【活動指標】  
研修の受講者数

② A I に係る部外委託研修における受講者に対する受講結果のアンケート調査  
【成果指標】  
受講者の知識・技能の向上率

② A I の導入・活用を推進する体制を強化

( 参 考 资 料 )

## 【参考】

# 防衛省 A I 活用推進基本方針（概要）

- 令和6年7月、防衛省として初めて、A I 活用推進の羅針盤となる基本方針を策定
- 基本方針は、第1部「基本方針策定の背景と目的」、第2部「A I の活用分野と方向性」、第3部「A I 活用推進に向けた取組」から構成
- 国内・国外で行われている最新の議論を参考に、A I の活用分野、A I の利用に伴うリスクへの対応、データ基盤の構築、A I ・データ人材の確保・育成、研究開発など、幅広い事柄について防衛省の考え方を示すもの

## 第1部

### Ends

#### 策定の背景

A I は、**科学技術の急速な進展による安全保障の在り方の根本的な変化や、人口減少と少子高齢化**という、我が国が直面する課題を克服する技術の一つとなる可能性

#### 策定の目的

- ・ 防衛省内で A I を活用する取組の**戦略性や一貫性を担保**
- ・ **データや人材という資源について、組織の垣根を越えて共通化**
- ・ **国民の理解を背景とする行政や、他国との協力・連携を推進**
- ・ **部外の企業や研究機関等との円滑な協力関係を構築**

## 第2部

### Ways

#### A I の機能と限界

A I の活用に当たっては、**まずは人間が具体的な課題を特定し、その課題克服のために A I を役立てることができるか検討する**というプロセスが重要

- ・ 以下の7分野で重点的に A I を活用
  - ① 目標の探知・識別
  - ② 情報の収集・分析
  - ③ 指揮統制
  - ④ 後方支援業務
  - ⑤ 無人アセット
  - ⑥ サイバーセキュリティ
  - ⑦ 事務処理作業の効率化
- ・ ただし、**A I の活用を上記7分野に限定する趣旨ではなく、まずは試行してみることも重要**
- ・ **A I が行うのは人間の判断のサポート**であって、その活用に当たっては**人間の関与を確保**

#### 活用分野

#### リスクへの対応

「A I 事業者ガイドライン」で示されている、**人間中心、安全性、公平性等の考え方**を参考としつつ、国際社会での議論にも注意を払い、**A I がもたらすリスクの低減に取り組む**

## 第3部

### Means

#### ■データ基盤の構築

- ・ 「データが任務遂行に不可欠な戦略アセットである」との意識を涵養
- ・ 共有が必要なデータを特定し、データフォーマットを標準化

#### ■A I ・データ人材

- ・ A I 関連業務を隊員のみで処理するのは非現実的、民間の A I ・データ人材に積極的にアプローチ
- ・ 内部育成の面では、人材ニーズに適した A I 講座の受講を促進

#### ■研究開発

- ・ 国際的な議論の文脈で表明している一連のコミットメントの具体化に向け、ガイドラインを策定

#### ■教育・研究機関との協力関係を拡大・深化

#### ■各国との協力・連携を推進

#### ■A I 軍備管理・A I 倫理

- ・ 国際的な議論に積極的かつ建設的に貢献

#### ■他の先端技術と生成 A I

- ・ A I を支えるインフラとなる可能性のある先端技術について、必要に応じ導入を検討
- ・ 生成 A I については、できる限りリスクを低減することを重視しつつ、導入に取り組む